

2008年10月28日

スタンダードチャータード銀行は、本日付で、2008年度第3四半期に関する中間期経営ステートメント(IMS)を発表いたしました。

本年度第3四半期の業況は、上半期の堅調な実績をもとに好調に推移しました。現在、アジア経済における成長の伸びは緩やかなものへと変わりつつありますが、同地域国経済は引き続き堅調であり、西側諸国と比べても高い成長率を維持しています。当行も広範かつ多岐にわたる販売網を通じて、引き続きこの成長機会を捉えた事業を展開しています。

ホールセールバンキング部門については、当初の予想(本年度上半期)より緩やかではあるものの、力強く幅広い収益モメンタムを維持。その中でもトランザクションバンキング、特にトレードファイナンス(貿易金融)ビジネスが底堅い実績を上げています。特定の米金融法人関連ビジネスからの損失が一部発生しましたが、これによるグループへの影響はございません。また、現在手持ちの資産担保型証券(ABS)ポートフォリオの資産価値は49億米ドルから約41億米ドルへ減少していますが、これは主に償還によるものであり、グループ利益への影響はございません。同部門資産ポートフォリオに関するクレジットクオリティは引き続き良好なものとなっています。

コンシューマーバンキング部門における融資事業および中小企業向け(SME)ビジネスの収益は、第3四半期も堅調に推移いたしました。ウェルスマネジメント事業は、グローバル金融セクターの混乱による消費者の買い控えが影響し、同四半期(特に9月)の売上高が減少しましたが、クレジットクオリティは主要商品全般にわたり良好に推移しています。

スタンダードチャータード銀行は、支出に対する厳しい内部統制を実施しつつ、今後も販売網拡大のための投資を続けていく所存です。先月のみでも香港に3店舗を新規設立し、中国全土の販売拠点を49に増加。また、ベトナムではインターネットバンキング事業の導入を行いました。プライベートバンキング事業においては、韓国、インドで非居住者向け商品をローンチ。また、ホールセールバンキング部門では、市場の混乱を越えて優秀な人材を採用し、引き続き業務体質の強化を図っています。また、10月7日付で台湾の中小金融機関であるアジア・トラストの買収を発表いたしました。

スタンダードチャータード銀行は、手堅い財務基盤のもと、高い流動性と強い資本力を有し、広範な拠点ネットワークを駆使して多種多様なアセットタイプ・業種を取り扱ったサービスを行っています。第3四半期の顧客預金残高は堅調な伸びを見せていますが、当行はさらに主要ビジネス・顧客セグメントに注力し、選択的な資産増加を推し進めています。また、通貨市場、金融市場における相場変動や、それにより高まる市場の不確実性に対しては、今後も十二分に留意してまいります。

第3四半期業績について、当行グループCEOであるピーター・サンズは次のように述べております。「市況が混乱する中、スタンダードチャータード銀行は当四半期も引き続き収益成長を達成いたしました。当行のファンダメンタルズは堅固であり、特に現在の厳しい市況下において、事業展開する市場で引き続きビジネス機会を捉えることができる大変良いポジションにあるといえます。当行は、アジア・アフリカ・中東地域に注力した事業戦略に支えられ、堅実な成長を遂げています」

次期四半期の業務予測については、12月初旬の発表を予定しております。

英語版でお読みになる場合は、以下のサイトにアクセス願います。

<http://www.standardchartered.com/media-centre/press-releases/2008/documents/20081028/index.html>

詳細につきましては、以下の担当者へご連絡ください。

Stephen Atkinson, Head of Investor Relations
Ashia Razzaq, Investor Relations, Asia

+44(0)20 7885 7245
+852 2820 3958

日本語での問い合わせは以下へご連絡ください。

Christopher Domitter (クリストファー・ドミター)

スタンダードチャータード銀行東京支店コーポレートアフェアーズ部部长

Christopher.Domitter@standardchartered.com

03 5511 1361

本資料に記載の「今後の見通し」については、現時点での予測・意見、もしくは将来予測されるイベントに基づき作成されたもので、その適時性、実現性を保証するものではありません。また、本資料には、予測、目標、見通し、傾向、計画、目標、評価、意見、可能性他、それに類似する表現が使用されていますが、このような表現を含む各種見解・見通しについては、今後の経済動向や市場環境等の変化に対応して当行の業績、計画、目標を変更する場合もあり、その正確性もしくは完全性に関していかなる責任も負わないものとします。また、本資料は、信頼できると思われる過去または現在の情報に基づき作成されていますが、将来における結果を示唆するものないことをご了解ください。更に、当資料中のコメントは作成日現在の当行の判断を示したものであり、将来のイベントや情報により内容に変更がある場合にも、当行はそれに対する責任を負わないものとします。